

サピアタワー「東京オトナ大学」11/20(日)開催 ～野口健氏の基調講演と大学講義が無料で受講できる～

株式会社ジェイアール東日本ビルディング（代表取締役社長 田邊 滋）は、東京ステーションシティのサピアタワーにおいて、11月20日（日）に『東京オトナ大学』を開催いたします。第6回目となる今回は、アルピニストの野口健氏による基調講演のほか、サピアタワーに入居している9大学の教授が、社会学・経営学・心理学など様々な角度から「これからの日本」を考える講義を行います。



© Ken Noguchi Office

基調講演 野口 健 氏

1973年8月21日、アメリカ・ボストン生まれ。1999年、エベレストの登頂に成功し、7大陸最高峰世界最年少登頂記録を25歳で樹立。2000年からはエベレストや富士山での清掃登山を開始。また2007年12月には大分県にて開催された「第1回アジア・太平洋水サミット」の運営委員として、「温暖化による氷河の融解」を取り上げる先導役を務め、各国元首級への参加を呼びかけた。現在は、清掃活動に加え地球温暖化による氷河の融解防止にむけた対策に力を入れており、北海道洞爺湖サミットでは政府に対し現場の状況を訴える等、精力的に活動を行っている。

【実施概要】

- 名称：「東京オトナ大学」（とうきょうおとなだいがく）
- 日程：2016年11月20日（日） 13:00～18:00（受付開始 12:00）
- 会場：サピアタワー4階・5階「ステーションコンファレンス東京」
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
- 主催：株式会社ジェイアール東日本ビルディング
- 協賛（講義提供）：東京大学 先端科学技術研究センター、東北大学、埼玉大学
関西大学、関西学院大学、甲南大学、西南学院大学、
立命館アジア太平洋大学（APU）、流通科学大学
- 協力：東日本旅客鉄道株式会社、東京ステーションシティ運営協議会
- 参加：無料、WEBサイト（<http://www.otonadaigaku.jp/>）での事前申込制（10月24日受付開始予定）
- 一般問い合わせ：東京オトナ大学事務局 TEL 03-6406-0762（平日11:00～18:00）

東京駅サピアタワー・知性と出会う

東京駅 TOKYO STATION CITY SAPIATOWER

東京オトナ大学
TOKYO OTONA UNIVERSITY



※「東京オトナ大学」は(株)ジェイアール東日本ビルディングの登録商標です。

※ 本件プレスリリースは、ときわクラブ、丸の内記者クラブ、JR 記者クラブ、文部科学省記者会に同時配付しています。

【本リリースに関するお問い合わせは下記にお願い致します】

株式会社ジェイアール東日本ビルディング 総務部 広報室 担当：鈴木 TEL:03-6860-6761 FAX:03-3231-6757

【参考】サピアタワーと東京オトナ大学

開催場所であるサピアタワーは、東京駅を一つの大きな街ととらえ、駅が都市を変える・都市が駅になるというコンセプトのもと、JR 東日本が進める開発「東京ステーションシティ」プロジェクト第一弾として 2007 年に竣工しました。

開発コンセプトとして「情報を発信する場」「Research&Education」を掲げ、人々が集い、調査・研究ならびに教育を行う場として日本橋口の開発を行ったことから、ビル名称を「サピアタワー」としました。

「サピア」は、sapience（知恵）に場所を表す接尾語（-ia）を付した造語であり、知の情報発信拠点であることを表現しており、ホテル、オフィス、コンファレンス、店舗を備えた複合ビルです。

オフィス部分（8～26 階）には企業その他、大学がオフィスやキャンパスを構え（8～10 階）、様々な情報の集約・発信に相応しい構成となっており、集積しているからこそその情報発信や PR になる場を作ろうと、当社が企画しスタートしたのが「東京オトナ大学」です。

東京オトナ大学は 2011 年から始まり、今年で第 6 回目を迎えます。過去 5 回で約 3,500 名の皆さまにご来場いただき、毎年楽しみにしているとお声も頂戴しています。

今後も皆さまの知的好奇心を満たせるようなイベントを継続して開催できるよう努めてまいります。

サピアタワー

■物件名称：サピアタワー

■所在地：東京都千代田区丸の内 1-7-12

JR 東京駅日本橋口直結、東京メトロ大手町駅 B7 出口直結

■階 数：地上 35 階 地下 4 階

■竣 工：2007 年 3 月

■用 途：オフィス、コンファレンス、ホテル、店舗

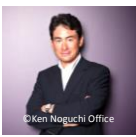
■フロア構成

27～34 階	ホテルメトロポリタン丸の内
8～26 階	オフィス 【協賛大学】 10 階：関西学院大学、甲南大学、東北大学、西南学院大学 9 階：関西大学、流通科学大学、埼玉大学 8 階：東京大学、立命館アジア太平洋大学
7 階	クリニック
4～6 階	ステーションコンファレンス東京
1・3 階	店舗



講演・講義一覧

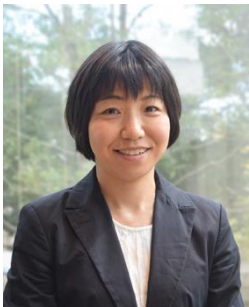
■ 基調講演 (15:00～16:00)

講演者	講演内容
アルピニスト のぐち けん 野口 健 	富士山から日本を考える ～環境との共生と地方創生～ これまで取り組んできた富士山の活動やエベレストでの活動を生と死を交えながらお話します。また、今の日本における身近にある環境問題をどのように考え、対処していくべきか、地域の活性化と絡めてお話します。

■ 講義 (13:00～14:30／16:30～18:00)

13:00～14:30

講義者	講義内容
埼玉大学 人文社会科学部 うすい かずお 教授 薄井 和夫 	日本的マーケティングの過去・現在・未来 わが国のマーケティングは、第2次大戦後にアメリカから「マーケティング」という考え方が導入されて初めて展開したと従来は考えられていましたが、わが国にはわが国の独自の近代的なマーケティングが、すでに戦前から活発に展開されていました。本講義は、こうした先人たちのマーケティング活動の具体的な事例を取り上げながら検討します。講師は、イギリスのルートリッジ社から『近代日本のマーケティングと消費』という英文の著作を2014年に刊行し、このほどそのペーパーバック版も発売になりましたが、講義では、この本の内容も含め、温故知新の精神でわが国のマーケティングの歩みを振り返りつつ、日本のマーケティングの現在と未来を考えてみたいと思います。
関西大学 人間健康学部 おかだ ただかつ 教授 岡田 忠克 	格差社会と貧困問題－子どもの貧困を考える 豊かにものがあふれている現代社会において、今なお解決されない深刻な福祉課題がある。「子どもの貧困」の問題である。非正規雇用や経済不況などの保護者の経済的要因や子どもの成長や生活に必要なものが不足している環境が影響し、将来の教育や就職等の生活上のチャンスが奪われ、その後の人生にも大きな影響を与えることが指摘されている。本講座では、格差と貧困問題を引き起こしている現状について明らかにし、今後の課題について考えていきたい。
西南学院大学 人間科学部心理学科 はなだ としろう 教授 花田 利郎 	ココロのコリとのつきあい方 日常生活における些細なことがもとともなっても心は動かしにくく不自由になります。大きなことであれば、余程割り切ることでできない限り、なおさらでしょう。また、心はモヤモヤしているのにどんなに考えても思い当たることにたどりつけないこともあります。ココロの動きにくさ(不自由さ)を「ココロのコリ」と称して、それらとの「つきあい方」を一緒に考えましょう。つき合い方に関する簡単なエクササイズ(ワーク)も行いますので、筆記具を持参し、少し動きやすくゆったりとできる服装でご参加ください。
立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 おおたけ としつぐ 教授 大竹 敏次 	地方にあるグローバル大学が考えるこれからの文系大学国際戦略とは これからの大学教育、特に経営学部の教育は、世界の大学とどのように競い合うことができるのか。 地方大学がグローバル社会で戦うために、国際認証取得をはじめとして、どのような人材育成を担っているのかを紹介する。

流通科学大学 人間社会学部 もりとう 准教授 森藤 ちひろ 	「医療機関が地域を変える～地域医療の新たな役割～」 高齢化や人口減少が進む日本において、医療機関が担う役割は多岐になり、重要性を増しています。地域包括ケアシステムの実施や保健医療2035の実現に向けて、地域における医療機関への期待はますます大きくなっているといえるでしょう。医療機関は、単に医療サービスを提供するだけでなく、人々の健康維持・増進の支援や予防医療の啓蒙、ライフスタイルの提案などにも活動の幅を広げています。本講義では、地域住民のくらしを守るために先進的な取り組みを行っている事例をもとに、地域における医療機関のこれからについて、皆様と一緒に考えたいと思います。
--	--

16:30～18:00

講義者	講義内容
東京大学 教授 (先端科学技術研究センター)、知的財産法 た ま い か つ や 玉井 克哉 	「産業スパイ」はどこにでも – 営業秘密法制をめぐる制度間競争と日本 – 営業秘密の侵害に対する刑事罰の強化などを目的とした法改正が、昨年成立しました。東芝の技術情報が韓国ハイニックスに漏洩した事件では、懲役5年という判決も出ています。民事事件でも、新日鐵住金が韓国ポスコに約1000億円を請求した事件も決着しました。こうした変化は、どのような動きの表れなのでしょうか。国際的な「制度間競争」をキーワードに、それを読み解きます。
東北大学 情報科学研究科 こんよう まさし 准教授 昆陽 雅司 	超高齢化社会を迎え撃つ！ ～触覚フィードバック技術があなたを元気にする～ 人の全身に分布する触覚は、自身の運動の知覚にも役立っています。例えば、スマートフォンのボタンが押しにくい、高齢者が転倒しやすくなるといった現象は、本来あるべき触覚がなかったり、衰えたりすることが原因として挙げられます。視力を回復させる眼鏡のように、触覚を増強するためにはどうすればよいのでしょうか？この講義では、このような運動知覚に関わる触覚の役割について解説し、触覚のバーチャルリアリティや増強技術に関する最新の研究について紹介することで、これからの超高齢化社会を迎えることになる日本にとって、高齢者が自立を維持し、元気に暮らせる技術の将来を展望します。
関西学院大学 SGU招聘客員教授 く き た じゅん 久木田 純 	地球規模課題と日本のミレニアル世代：彼らは未来を確保できるのか 西暦2000年前後に生まれ育った、現在の中高生から30代前半の若者は、「ミレニアル世代」と呼ばれている。この一見怠け者で自分勝手だと見られるミレニアル世代は、金や権力ではなく自分の共感できる価値観のために行動する、リベラルで発信力が高く、強い社会貢献意識を持つ世代でもある。彼らは環境や核のリスク、貧富の格差や紛争、難民などの地球規模問題が自分と日本の未来を危うくしていることを知っている。彼らと人類に存続への解決策はあるのか。
甲南大学 文学部 教授 学生相談室 専任カウンセラー た か い し きょうこ 高石 恭子 	大人の発達障害を生きる～学生支援の最前線から見えること～ かつては子どもの問題と考えられていた、自閉症スペクトラム、ADHD、学習障害などの「発達障害」を抱える人々は、近年では高等教育にも多く在籍し、それぞれの個性に合った社会への巣立ち方を模索しています。脳の情報処理に特異性をもつこれらの人々を、家族や社会はどう理解し、支援することを求められているのでしょうか。カウンセラーとして実践してきた立場から、現状と今後についてお話してみたいと思います。

※本リリース記載事項は、2016年10月12日時点のもので、変更になる場合があります。